



発熱

Q1 高い熱が出ると、脳がやられませんか？

A. 高熱そのものによって脳に障害が残るとするのは迷信です。脳炎・脳症といった脳を壊す病気に罹れば脳が障害される可能性があります。脳と関係ない疾患（たとえば扁桃炎、肺炎）が原因で熱が続いたことによって脳に障害が残ることはありません。高熱が出たら、解熱剤を使って直ちに熱を下げなければならないと考える理由は何もありません。

Q2 生後3カ月未満の赤ちゃんの熱は注意すべきだと聞きましたが、なぜですか？

A. 生後3カ月までの赤ちゃんは、お母さんから臍の緒を通じてたくさんの免疫をもらっていますので、熱を出しにくいのですが、それでも熱が出たということは、強力な病原体に感染している可能性があります。たとえば、髄膜炎や敗血症、尿路感染症などです。また、3カ月未満では、それぞれの病気に特徴的な症状が出にくいということも言えます。そのため、3カ月未満の赤ちゃんが38℃以上の熱を出しているときには早急の受診が必要となります。

Q3 熱はすぐに下げるべきですか？

A. 小児の発熱の大半はウイルス感染症です。ほとんどのウイルスは熱に弱く、人の体は熱を出すことによって免疫力を高め病原菌と戦っているのです。したがって、すぐに熱を下げるのは好ましいことばかりではありません。元気で水分も取れていればすぐに解熱剤を使うのはひかえましょう。

Q4 熱が高いときほど重い病気なのでしょうか？

A. 熱の高さと病気の重さに直接の関係はありません。高熱でつらそうでも、ほかに症状が無い時は重い病気ではないことがほとんどです。熱が高くても元気があって水分が飲めていれば一晩様子を見ても大丈夫です。夜は高熱でも朝になると下がる場合があります。

Q5 熱があるときも入浴できますか？

A. 高熱のとき、および乳幼児の発熱時は入浴をひかえましょう。入浴で体力を消耗したり、脱水症を起こしてしまうことがあります。37.5℃以下で、全身状態が良く十分に水分が飲めていれば、短時間の入浴は差し支えありません。皮膚の汚れだけさっと洗い流して、湯船には長時間つからないようにしましょう。乳幼児の場合はお尻だけぬるま湯で洗ってあげましょう。

Q6 熱を出し切ると早く治ると言う人がありますが、高熱があるときに厚い布団で包んで汗をかかせるのはよいことなのでしょうか。

A. こどもは大人のように体温調節がうまくできません。室温・気温や服など、環境の温度が上がると熱をため込み、熱を発散できなくなってしまいます。10歳ころまでは、この点に特に注意が必要です。熱が高い時にふとんでグルグル巻きにすることは、炎天下で車の中に放置するのと同様に危険なことです。熱の放散を妨げない程度の着せ方をしてください。熱が高い時は、十分に水分を補給することも非常に大切です。

Q7 解熱剤を1～2回使っても熱が下がりません。どうしたらよいのでしょうか？

A. 熱の高さ、持続日数は感染症の種類によってさまざまです。かぜでも熱が2～3日続くことは珍しくありません。病気により発熱の勢いが解熱剤の効果を上回る時は「解熱剤が効かない」と感じることもあります。40℃近い体温が38℃台まで下がれば解熱剤としての効果は充分に出ています。安全な解熱剤（アセトアミノフェン、イブプロフェン）であれば6時間以上の間隔をあければ繰り返し使用できます。解熱剤はあくまで一時的に熱を下げるだけのお薬で病気を治す薬ではありません。発熱だけで他の緊急を要する症状が無ければ、安静にして主治医の指示通りに治療を続けましょう。



嘔吐・下痢

Q1 脱水症状(水分不足)はどんな特徴でわかるのですか？

A. 唇や口の中が乾いて、唾液が粘っこい。泣いても涙が出ない。顔色が悪い。皮膚に張りが無い。半日以上尿が出ない、出ても少量で色が濃い。目が落ち窪む。目つきがトロンとしている。以上の症状が1つでもあれば脱水の可能性あります。

Q2 嘔吐や下痢の時の食べ物やミルクはどうしたらよいですか？

A. 吐気があり食欲が無い時は食事にこだわらず、経口補水療法をしっかり行ってください(吐いたときのページを参照)。食欲が出てきたら日ごろ食べている普通の食事を始めてください。伝統的に行われてきた、一定期間の絶食の後にお粥から食べ始めるという、腸を休める食事療法は現在勧められていません。その理由は、カロリーの高い食事がかえって腸の回復を遅らせ、体力の低下から二次感染を起こしやすくなるからです。母乳や人工乳をうすめる必要ありません。

Q3 下痢は早く止めたほうがよいのでしょうか？

A. 感染性胃腸炎を起こしたとき、嘔吐や下痢は病原菌を体外に排泄するための、生態防御反応のひとつと考えられます。水分がしっかり取れていれば、下痢を止めてしまわないほうが回復が早いこともあります。特に細菌性の腸炎では下痢止めを使用することで重症化することもありますので注意が必要です。乳幼児では下痢止めを漫然と使用することで腸が動かなくなり、腸閉塞の症状が出てしまうこともあります。

Q4 赤ちゃんの嘔吐で注意することはありますか？

A. 赤ちゃんは授乳後に口からタラリとこぼれるように吐くことがあります。嘔吐の回数が多くても、元気がよく、哺乳力も強く、体重も順調に伸びていれば心配いりません。授乳後にゲップとともに吐くのも、他の症状がなければ心配いりません。咳き込みと一緒に吐いてしまうのも、回数が多くなければ大丈夫です。ただし、授乳の後にしばらくして噴水のように吐いてしまう時はすぐに受診しましょう。

腹痛

Q1 よくお腹を痛がります。
受診が必要なのはどんなときですか？

A. こどもはお腹を痛がるのがしばしばあります。特に異常が無くても急にお腹が痛いと言って親を心配させますが、間もなく治まって元気に遊んでいることもあります。2~3日便が出ていないときや日ごろから便が固めのお子さんは排便の前にお腹が痛いと言ったりします。頻繁に腹痛を訴えるときには、念のため診察や検査に十分時間を取れる午前中に受診しましょう。

Q2 3~4日排便が無く、お腹を痛がります。
自宅で浣腸をしてよいのでしょうか？

A. 市販の浣腸を年齢相当の量で使用するのには問題ありません。排便後に腹痛が治ればそのまま様子を見てよいでしょう。腹痛が治まらないときや便がいつもと違う時(血便など)は、便を持参して受診してください。

けいれん

Q1 けいれんを起こしたら、口の中に割り箸を入れるべきなのですか？

A. けいれんを起こすと、舌を噛むのでスプーンや割り箸を入れるべきであるというのは間違いです。けいれんのときに舌を噛み切ることはなく、物をいれることで却って嘔吐を誘発して危険であることもあります。大切なことは顔を横に向けて、けいれんが起こっているときに吐いた場合に、吐物を気管にひっかけることを避けることです。



Q2 熱性けいれんとはどんなけいれんですか？

A. 6か月から6歳未満のこどもに多くみられるけいれんで、38℃以上の熱を出したときに起こります。脳炎などの「脳にダメージを与える病気」や「毒になるものが体にたまるような病気」がなく、急激に上がる熱にこどもの未熟な脳が反応して起こるけいれんを言います。日本人の8%くらいに見られるものです。熱性けいれんは発熱後24時間以内に起こりやすく、けいれんが起きてから熱に気がつくこともあります。脳がダメージを受けて起こっているものではありませんので、後遺症や障害が残ることはありません。体が突っ張った後にピクピクと手足を震わせ、白目を向いて顔色が悪くなるのが一般的な形です。多くは1～2分、長くても5分以内に止まります。けいれんを起こしているときに嘔吐して吐物を気管に詰め込まない限り、命を落とすことはありません。けいれんを起こしているときは、顔を横に向けて吐いたものが外へ流れるようにしてください。熱のあるこどもがけいれんを起こした時、大部分は熱性けいれんに分類されるものですが、ごく稀に脳炎によるけいれんが紛れ込みます。その区別が重要になります。

Q3 たちの良い「熱性けいれん」と「脳炎によってけいれんを起こしている場合」の症状はどのように違うのですか？

A. 次のような場合は脳炎の可能性があり、医療機関で詳しい検査を行う必要があります。

- ・ けいれんが15分以上続くとき
- ・ 立て続けに何回も起こるとき
- ・ けいれんの後に意識の障害が長時間続くとき
- ・ 熱が何日も続いたあげくの果てにけいれんを起こした時

Q4 急に熱が出て、手足や体がブルブルふるえています、意識はあります。けいれんですか？

A. 急激に熱が出るときに、寒気でふるえが来ることがあります。意識がはっきりしていればけいれんではありません。通常、熱が上がりきってしまえばふるえは止まりますので受診の必要はありません。寒気がおさまり、手足が温くなるまで、保温して様子をみましょう。

Q5 激しく泣き、息が詰まったようになって体がつっぱってしまいました。けいれんですか？

A. 泣き入りひきつけで、本当のけいれんではありません。つっぱるだけでなく、全身の力が抜けてしまうこともあります。自然に回復するので心配いりません。

Q6 けいれんの後に眠ってしまいました。このまま様子を見てもかまわないのでしょうか？

A. けいれんで興奮した脳の神経細胞が疲れて休んでいる状態で、後睡眠といいます。脳の活動が回復すると、目覚めて心配ないことがほとんどです。一度も目を覚まさず、1時間以上眠り続ける時は救急外来を受診してください。初めてのけいれんの場合も医療機関を受診しましょう。

やけど

Q1 水ぶくれはなぜ破らないほうがよいのでしょうか？

A. 水疱の中は無菌状態ですが、水疱を破るとそこから細菌が入って化膿する恐れがあります。感染を防ぐために、範囲が広くなければ破らないようにします。また、水疱の内容には皮膚の再生を促す成分も入っています。もし、水疱が破れてしまったら消毒して清潔にしておくことが大切です。

大分県 こども救急電話 相談事業

こどもが病気やケガで心配なときや、
病院へ行った方が良いかどうか
判断に迷ったとき、看護師が相談に応じます。

TEL
097-503-8822

※中津市内からは上記電話番号をご利用ください。
短縮ダイヤル#8000を中津市内から利用されます
と近隣のこども救急電話につながります。

相談時間

平日

午後7時～翌朝8時

日・祝日

午前9時～午後5時

午後7時～翌朝8時

●ご利用にあたって●

- ・この電話相談は、病気の診断・治療をするものではなく、助言によって保護者の判断の参考としていただくものです。
- ・相談内容は、こどもの急な病気や事故に関する相談を対象としていますので、慢性疾患や急を要しない育児相談には応じることができません。
- ・相談料は無料ですが、通話料はご負担いただきます。
- ・1回線のみ対応となりますので、簡潔にご相談ください。
- ・保護者の目から見て、明らかに緊急を要する場合は119番をご利用下さい。

おおいた 医療情報ほっとネット

県内の医療機関や休日当番医の情報を提供しています。

<http://iryō-jōhō.pref.oita.jp/>

おおいた医療情報ほっとネット

(病院・診療所・助産所・薬局案内)

医療機関・薬局の名称で検索

名称の一部又は全てを入力し、医療機関・薬局を探すことができます。

医療機関 薬局

検索

医療機関を探す

かんたん検索
↑診療科目、地域で探すことができます。

いろいろな条件で検索
↑対応可能な疾病・治療、予防接種などで探すことができます。

薬局を探す

かんたん検索
↑地域で探すことができます。

いろいろな条件で検索
↑業務内容、相談に対する対応などで探すことができます。

小児科を探す

日時で小児科を検索
↑日時で小児科を探すことができます。

小児科の専門医を検索
↑小児科の専門医を探すことができます。

休日当番医を探す
↑休日・夜間に診療を行う当番医を探すことができます。

For English

Search Hospital&Clinic

検索以外の情報

4疾病(がん・脳卒中・
心筋梗塞・糖尿病)への対応
可能な医療機関一覧

一覧を見る

難病関連情報

情報を見る

休日の当番医を探すには、このボタンを選択してください。

お役立ち情報

●こどもの救急（日本小児科学会）

こどもの急な症状について、症状別チェックによる対処法を掲載しています。

<http://kodomo-qq.jp/>

●中毒110番（情報提供料：無料）

大 阪：**072-727-2499**（365日／24時間）

つくば：**029-852-9999**（365日／9時～21時）

●タバコ専用電話（情報提供料：無料、テープによる一般市民向け情報）

大 阪：**072-726-9922**（365日／24時間）

(財)日本中毒情報センターでは、化学物質、医薬品などによって起こる急性中毒について、一般の方に無料で情報提供しています。

「子どものための電話相談窓口」

【 保健(医療)に関する相談窓口 】

母子保健(妊娠・出産・乳幼児の発育や育児等)から、精神保健(こころの相談、認知症、ひきこもり、うつ)まで、保健師等が相談に応じます。

0979-22-2210(代表)

●大分県北部保健所 地域保健課 健康増進班・疾病対策班

母子保健(妊娠・出産・乳幼児の発育や育児、予防接種等)の相談を保健師等が応じます。

0979-22-1170(直通)

●中津市役所 地域医療対策課 市民健康推進係

受付時間 いずれも 月～金 8時30分～17時15分
(土日、祝日、年末年始を除く)

【 障がい福祉に関する相談窓口 】

障がいを有する18歳未満の児童に係るサービスや手当等に関する相談に応じます。

0979-22-1111(296～298)

受付時間 月～金 8時30分～17時15分
(土日、祝日、年末年始を除く)

●中津市役所 社会福祉課 障害福祉係

発達に心配のある子どもさんについての相談に応じます。

0979-43-6181

受付時間 月～金 9時00分～17時00分
土 9時00分～12時00分
(日、祝日、年末年始を除く)

●つくし園 ポケット

【 児童福祉に関する相談窓口 】

18歳未満の児童の福祉に係るあらゆる心配ごと、養護相談(養育困難・虐待・里親)、心身障がい相談(心身発達の遅れ)、非行の相談、育成相談(不登校など)に児童福祉司、児童心理司などが応じます。

0979-22-2025(24時間対応)

来所相談 緊急の場合を除き、上記の電話番号で予約必要
来所受付時間 月～金 9時～17時(土日、祝日、年末年始を除く)

●大分県中津児童相談所

18歳未満の児童の福祉に関する相談(しつけや子育ての悩みや子どもの虐待など)、一時預りや子育て支援短期利用事業についての相談に家庭児童相談員・子育て支援相談員・保育士・保健師等が応じます。

0979-22-1129(直通)

受付時間 月～金 8時30分～17時15分
(土日、祝日、年末年始を除く)

●中津市役所 子育て支援課

【 子育てに関する相談窓口 】

育児、しつけ、子どもの問題行動、発達の遅れ、不登校や非行など、子育てに関するあらゆる不安やお悩みを24時間365日いつでもご相談ください。

「いつでも子育てほっとライン」

097-545-0110(24時間対応)

●大分県こども・女性相談支援センター

中津市からのお願い

中津市では、中津市民病院小児科を中心とした独自の救急体制作りを推進しています。次の点にご留意ください。

- 休日・夜間にお子さんが急病になり病院へ行った方が良いか判断に迷った場合は、まずは「大分県こども救急電話相談」(097-503-8822)にお電話下さい。(詳しくはP44を参照)
- 中津市民病院には、小児救急外来が併設されていますので、休日・夜間にお子さんが急病になった場合は、中津市民病院を受診することができます。受診する前に必ず中津市民病院(0979-22-2480)に電話するようご協力お願い致します。
ただし、平日の日中にお子さんの具合が悪くなった場合には、昼間の診療時間内にかかりつけ医を受診いただきますようお願いいたします。
- この「小児救急ハンドブック」には、休日・夜間にお子さんの具合が悪くなった場合に、しばらく様子を見てもいいのか、すぐに医療機関を受診した方がよいのかなど、症状に合わせて具体的な対処法を記載しています。実際に医療機関を受診するかどうかは、保護者の皆様のご判断となりますので、その際にお役立ていただけたら幸いです。
- この「小児救急ハンドブック」は、中津市のホームページ左側「組織からさがす」の地域医療対策課内「急病のとき」に、小児救急ハンドブック中津版を掲載していますので、PDF資料としてダウンロードできます。

<http://www.city-nakatsu.jp/>

「小児救急ハンドブック」

発行日 平成23年10月

発行 中津市

編集 大分県・大分県医師会・大分県小児科医会

監修 大分県小児科医会 会長 河野 幸治

大分県小児科医会 副会長 石 和 俊

大分県小児科医会 理事 安藤 昭和

問い合わせ先

中津市 生活保健部 地域医療対策課 0979-22-1111(681)